

「相互内在」

(ヨハネによる福音書 1:29-41)

「〇〇さんを知っている」というとき、ただ名前だけ知っているのと、その人のひととなりまで知っているのとでは大きく異なります。イエスを知っている、というのも同様です。ただキリスト教の教祖としてか、まことにメシアとしてか。ヨハネ福音書には、まことのメシアとして主イエスを知るため、主イエスと出会うために大切なことが示されています。

洗礼者ヨハネの二人の弟子が、主イエスの弟子となるためについてきます。主イエスは振り返り、後をついてくるこの二人に「何を求めているのか。」と問います。彼らは問いで答えます。「ラビ、どこに泊まっているのですか。」これは奇妙なやり取りに感じられますが、主イエスはきちんとお答えになります。「来なさい。そうすれば分かる。」この直訳は「来なさい、そして見なさい」です。彼らは主イエスの泊まるところについていき、主イエスの上に霊がとどまっていることを見、主イエスが神にとどまる、神の愛の内に生きるまことのメシアだと知りました。

ここまで何度も使われている「泊まる」と訳されている単語は「μἐνω (メノー)」という語で、ヨハネ文書で最も大切な単語の一つです。驚くほど頻繁に使われていますから、是非読み返してみてください。他の箇所では「とどまる」とか「繋がる」とか「内にいる」と訳されています。なぜこの単語が大切かというと、「相互内在」ということが、主イエスとの出会いには不可欠だからです。「相互」とは主イエスとわたしたち、「内在」とは相手の内に存在する、とどまる、ということです。主イエスがわたしたちの内にとどまり、わたしたちも主イエスにとどまるなら、わたしたちは時空を超えてまことのメシアとして主イエスを知ること、出会うことができる。このことをヨハネ文書は伝えているのです。

二人の男たちは、主イエスのもとに泊まる（とどまる）ことで、主イエスを知り、主イエスと神との交わりにまで迎えられました。「何を求めているのか」と問われた主イエスは、この神との関係へと二人を招いたのです。二人の男はその招きに応え、主イエスにとどまることで、まことのメシアと出会いました。「わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです（I ヨハネ 4:19）」とある通り、「相互」に「内在」できるのは、主イエスがまずわたしたちにとどまってくださるからです。主の愛の招きに応え、主イエスの愛にとどまりましょう。